

# 山口大学シラバス作成ガイドライン

一部改正 令和5年12月19日  
教育・学生支援機構 教学マネジメント室

## 1. シラバスの作成目的

シラバスは各授業科目の詳細な授業計画です。一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価、教育の内部質保証において単位の実質化、教育課程の体系性を裏づける資料等にも使われます。

本ガイドラインは、シラバスを作成するための必要事項を示したものです。各授業担当の先生方は、必ず本ガイドラインを参照し、必要要件を満たすシラバスを作成するようにしてください。

## 2. シラバスの作成スケジュール

1月中旬	各教員へシラバス作成依頼（各学部・研究科及び教育支援センター）
下旬	
2月上旬	シラバス登録期限（授業担当教員）
中旬	
下旬	シラバス点検（各学部・研究科及び教育支援センター）
3月上旬	シラバス修正（該当授業科目担当教員）
中旬	
下旬	シラバス公開

※年度、各学部・研究科及び教育支援センターにより作成スケジュールが異なる場合があります。  
詳細は各学部・研究科及び教育支援センターからの年度ごとの入力依頼をご確認ください。

## 3. シラバス点検の実施体制と内容

### （1）シラバス点検の実施責任組織

シラバスの点検は、以下のとおり、責任をもって実施してください。

- ① 各部局の開設科目 … 各学部・研究科（教務関係委員会または科目開設を担う組織等）
- ② 共通教育科目 … 教育支援センター（開講責任部局がある科目は開講責任部局）

### （2）シラバス点検の内容

以下の観点に沿って、記載内容が不十分・不適切なシラバスがないか、十分にチェックを行ってください。

- ① 各実施責任組織が担当する全科目のシラバスについて必須項目の記載がなされていること

- ② 各必須項目が「山口大学シラバス作成ガイドライン」に従って作成されていること
- ③ 各回の授業計画(授業外指示を含む)の記載内容が具体的で、当該授業科目の学修活動がイメージできるものであること
- ④ オフィスアワーが適切な時間に設定されるなど、学生が必要な学習相談が行える窓口が記載されていること

### (3) シラバス点検後の修正・提出

シラバス点検の各実施責任組織は点検の後、記載が不十分・不適切なものについて、当該シラバスの作成者に点検結果を通知するとともに、シラバス公開に遅延することのないよう期限を定めて修正・提出を求めてください。

※ 点検・修正を経たシラバスは、当該シラバスの授業開設年度前年度の3月に公開します。

### (4) シラバスの事後検証

各実施責任組織のシラバス点検結果については、教育(教育課程)の内部質保証に基づいて評価・改善につなげるものとします。

### (5) シラバス公開後の修正

シラバス公開後に、授業計画に変更や修正の必要が生じた場合、適宜修正し、学生にその内容の周知を行ってください。なお、「授業計画」の項目は授業開始後も修正が可能です。

## 4. シラバスの記載項目と留意点

※教職課程を構成する授業科目に関しては、資料4の注意事項に留意してください。

項目	留意点
開設科目名(英訳) 【任意】	● 科目名の英訳を記入してください。
使用言語 【必須項目】	● 授業で主に使用する言語(日本語か英語)を選択してください。
概要 【必須項目】	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業概要を記入してください。</li> <li>● <u>卒業認定・学位授与の方針(DP)及び教育課程編成・実施の方針(CP)を念頭に、何のために学ぶのか、学生が理解できるように分かりやすく記入してください。</u></li> <li>● 共通教育科目については、資料1に記載の「学習の目的」を踏まえ平易な内容になるようにしてください。</li> </ul> <p>※「実務経験のある教員による授業科目」の場合、「どのような実務経験を持つ担当教員」が「その実務経験を活かして、どのような授業を行うか」も記入してください。</p>

<p>一般目標 【必須項目】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DP に示されている事項と関連づけながら、授業終了段階で学生にできるようになってほしい事柄や修得してほしい力等を総合的に記入してください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《記入例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇を理解している。〇〇を述べることができる (DPO, DPO)。</li> <li>・〇〇 (DPO), 〇〇 (DPO)を理解することができ, 〇〇 (DPO)ができるようになる。</li> <li>・〇〇の能力を身につける(〇〇学科 DPO) (〇〇学科 DPO)。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共通教育科目については、資料1に記載の「学習の目的」を記載するか、その目的を踏まえた文書を記載ください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《記入例》</p> <p>課題探究型の能動的学修をとおして, 〇〇, 〇〇, 〇〇, 教育など 〇〇を知り, 〇〇〇〇する能力や態度を身につけるとともに, それらの資質を将来〇〇〇〇で活かす力を養う。</p> </div>								
<p>授業の到達目標 【必須項目】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DP で示されている事項と関連付けながら、授業終了段階で学生が最低限到達すべき目標を5つの観点別に具体的に記入してください。</li> <li>● 到達目標の達成が成績評価に直接結びつくことをふまえ、できるだけ具体的に記入してください。</li> </ul> <p>※以下は5つの観点の内容です。すべての観点を必ず記入する必要はありませんが、授業の特性に応じて観点を記入してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center; vertical-align: middle;">知識・理解 の観点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の具体的な知識や能力を身につけることを要求する目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇を理解している。〇〇を説明できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">思考・判断 の観点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる知識習得に留まらず、論理的思考力や創造性などを身につけることを要求する高次の目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇を指摘できる。〇〇を考察することができる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">関心・意欲 の観点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関する関心・意欲を高めることを要求する目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇に関心を持っている。〇〇を意欲的に討議できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">態度の観点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の結果、身につけてほしい態度や行動を要求する目標。</li> </ul> </td> </tr> </table>	知識・理解 の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の具体的な知識や能力を身につけることを要求する目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇を理解している。〇〇を説明できる。</p>	思考・判断 の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる知識習得に留まらず、論理的思考力や創造性などを身につけることを要求する高次の目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇を指摘できる。〇〇を考察することができる。</p>	関心・意欲 の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関する関心・意欲を高めることを要求する目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇に関心を持っている。〇〇を意欲的に討議できる。</p>	態度の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の結果、身につけてほしい態度や行動を要求する目標。</li> </ul>
知識・理解 の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の具体的な知識や能力を身につけることを要求する目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇を理解している。〇〇を説明できる。</p>								
思考・判断 の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる知識習得に留まらず、論理的思考力や創造性などを身につけることを要求する高次の目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇を指摘できる。〇〇を考察することができる。</p>								
関心・意欲 の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に関する関心・意欲を高めることを要求する目標。</li> </ul> <p>《記入例》</p> <p>〇〇に関心を持っている。〇〇を意欲的に討議できる。</p>								
態度の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の結果、身につけてほしい態度や行動を要求する目標。</li> </ul>								

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 226 683 324"></td> <td data-bbox="683 226 1382 324"> 《記入例》  ○○に参加できる。○○と協調できる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 324 683 517"> 技能・表現  の観点 </td> <td data-bbox="683 324 1382 517"> ・学習活動の結果, 身につけてほしい技能や表現力を要  求する目標。  《記入例》  ○○が使用できる。○○を表現できる。 </td> </tr> </table>		《記入例》 ○○に参加できる。○○と協調できる。	技能・表現 の観点	・学習活動の結果, 身につけてほしい技能や表現力を要 求する目標。 《記入例》 ○○が使用できる。○○を表現できる。
	《記入例》 ○○に参加できる。○○と協調できる。				
技能・表現 の観点	・学習活動の結果, 身につけてほしい技能や表現力を要 求する目標。 《記入例》 ○○が使用できる。○○を表現できる。				
<b>授業計画</b> <b>【必須項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般目標・到達目標を実現する授業内容・方法を記入してください。</li> <li>● <b>【全体】</b>と<b>【週単位】</b>の両方を記入してください。</li> <li>● <b>【全体】</b>には, 授業計画を文章で記入してください。</li> <li>● <b>【週単位】</b>には, 週ごとに授業計画を記入してください。各回の授業内容, 授業外指示(予習・復習等)の記入においては, 所定の学修時間(例. 講義 1 単位 45 時間, 講義 2 単位 90 時間)で構成されることをふまえて, 学生が学修活動のイメージがもてるように記入してください。  また, オンライン等を活用した授業を実施する際は, 授業形態及び利用するシステムを記入してください。</li> </ul> <p>※大学設置基準には「1単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする」と規定されています。この中には授業時間の他に予習, 復習の時間が含まれています。<u>シラバスは, 講義室などで行われる「授業」(1 単位 45 時間の場合は 15 時間)の計画・内容だけでなく, それ以外の学修を含んだ授業科目全体の構成・計画等を明確に示すことが必要です。</u></p> <p>※受講に際して配慮や支援が必要な学生も参考にすることに留意し, グループワーク等の有無など具体的に記入してください。</p> <p>※「特別研究」等<b>【週単位】</b>での記載が合理的でない科目の場合は, <b>【全体】</b>に授業計画をまとめて記載すること及び授業外指示等をまとめて記載しても構いません。</p> <p>※授業計画に関しては, 授業開始後でも修正が可能です。授業の進行に合わせて適宜修正し, 学生に周知してください。「マイシラバス」に変更を反映させるためには, 「マイシラバス」画面で再度「シラバス授業計画の登録内容をコピーする」ボタンを押す必要がありますので, ご注意ください。</p> <p>※<b>【授業記録】</b>[AL(アクティブ・ラーニング)]は任意項目になります。</p> <p><b>【週単位】</b>  [授業回数の設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業回数を選択してください。</li> </ul>				

※期末試験の設定に関して、以下の注意が必要です。

**(a)セメスターの授業の場合**

- ・期末試験を含めて16週分を記入してください。
- ・試験を行わない場合は、15週まで記入してください。

※資料2を参考にしてください。

※システムの仕様上、当初は15回分のみ記述欄が表示されていますので、16週目を記入する場合は「30回」を選択してください。(公開時には17回以降の欄は表示されません。)

**(b)クォーターの授業の場合**

- ・『総括と試験』を含めて8週分を記入してください。
- ・試験をする場合は7週目または8週目の項目に「総括と期末試験」等と記入してください。

※資料2を参考にしてください。

[項目]

- 授業の大まかな授業内容を記入してください。

[内容]

- 授業内容の詳細・授業方法等を記入してください。

[授業外指示]

- 授業外学習の内容及び学修時間の目安を記入してください。

**《記入例》 ※講義及び演習の場合**

- ・授業計画に沿って、準備学習2時間と復習2時間を行う。
- ・配布した講義資料や参考書を参照し準備学習2時間と復習2時間を行う。
- ・授業で指示した〇〇について調査し、レポートを作成する(4時間)。

※学生の子復習を促すために具体的な指示を記入してください。例えば、2単位の講義を行う場合は90時間の学修が必要ですが、このうち授業の30時間を除く60時間は、授業外学習が必要となります。半期15回の授業では、1回の授業に対して4時間の授業外学習が必要、という計算になります。この授業外学修は、当該授業科目全体を通して必要な学修時間を要するデザインであればよく、必ずしも毎回の授業に対して2倍行うようにデザインする必要はありません。

※学則 38 条第 3 項の定めにより学修の成果を評価して、単位を授与すること

	<p>が適切と認めている場合は、必要な学修等がわかるようにシラバスを記入してください。必ずしも学修時間の目安を記入頂く必要はありません。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《記入例》</p> <p>授業外学習については授業ごとに指示を行う。</p> </div> <p>[授業記録]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業期間開始前に配布する資料、授業で用いた資料やレジュメ等があれば必要に応じてリンクを貼ってください。</li> </ul> <p>[AL(アクティブ・ラーニング)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生の能動的な学修への参加を取り入れた授業・学習法(発見学習, 問題解決学習, 体験学習, 調査学習等のほか, 教室内でのプレゼンテーション, グループワーク等)がある場合に記入してください(資料3)。</li> <li>● 授業時間内における AL が占める時間の割合を選択してください。【多】: 授業時間の 50%超, 【中】: 授業時間の 15%~50%, 【少】: 授業時間の 15%未満を基準としています。なお, 「振り返り」と「宿題」については該当する場合に【あり】と表示されます。</li> </ul> <p>※【週単位】での記載が合理的でない科目の場合は, 第 1 週に授業全体に AL が占める時間の割合(平均)をまとめて記載しても構いません。この場合は, その旨が学生に分かるように明示してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《記入例》</p> <p>※[内容]や[授業記録]などを活用して記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「AL(アクティブ・ラーニング)欄」の A~D は, 第 1 週に授業全体の割合の平均を記載します。E と F は各回の「授業外指示」で指示します。</li> <li>・「AL(アクティブ・ラーニング)欄」の A~D は, 第 1 週に授業全体の割合の平均を, E と F は第 1 週に授業全体での有無を示しています。詳細は授業内で指示します。</li> </ul> </div> <p>※「AL ポイント認定制度シラバス入力マニュアル(教員用)【改訂版】」を参考にしてください。</p>
<p>成績評価法 【必須項目】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業の到達目標の達成状況を評価する方法を記入してください。</li> <li>● 【全体】と【観点別】の両方を記入してください。</li> <li>● 【全体】には, 成績評価方法を文章で記入してください。</li> <li>● 【観点別】には, 授業の到達目標として採用した観点それぞれについて成績評価方法を「◎(より重視する)」「○(重視する)」の 2 段階で記入してください。また, 「評価割合」は各評価方法によって評価する割合(合計 100%)</li> </ul>

	<p>を記入します。出席点は成績評価に利用できませんので「欠格条件」とし、その具体的な運用は教員の裁量とします。</p> <p>※[ルーブリック]は任意項目になります。</p> <p><b>【観点別】</b> [ルーブリック]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ルーブリック等の評価基準を設定している場合は、関連するファイル(PDF)をアップしてください。</li> </ul> <p>※ルーブリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを指します。</p>						
<p>教科書にかかわる情報 <b>【必須項目】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書は5冊まで記入できます。</li> <li>● <u>教科書等を使用される場合は、必ず記入してください。</u></li> <li>● 実際に公開されるシラバスには、入力された分のみ表示されます。なお、1冊も記入されていない場合は、何も表示されません。</li> <li>● 教科書等の購入先に指定があれば備考欄に記入ください。</li> <li>● <u>教科書等を使わずに、プリント等を配布する場合は、備考欄に必ずその旨を記入してください。</u></li> </ul>						
<p>参考書にかかわる情報 <b>【任意項目】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参考書は5冊まで記入できます。</li> <li>● 実際に公開されるシラバスには、記入された分のみ表示されます。なお、1冊も記入されていない場合は、何も表示されません。</li> <li>● 書籍に代わるプリントなどを使用される場合はその情報を、使用されない場合はその旨を備考欄に記入ください。</li> </ul>						
<p>メッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 履修にあたり伝えておくべき内容を記入してください。</li> </ul>						
<p>キーワード <b>【任意項目】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キーワード検索に用いますので、授業の内容に対して適切なキーワードを記入してください。</li> <li>● 授業に関連するキーワードのほかに、実務経験のある教員が授業を行う場合は、「実務家教員」と記入ください。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"><b>【留意事項】</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">※共通教育科目の「<u>知の広場</u>」, 「<u>山口と世界</u>」及び「<u>データ科学と社会Ⅱ</u>」の3科目については、下記を記入してください。</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">知の広場</td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"><b>《記入例》</b> 多様な職種の専門家が、オムニバス形式により、それぞれの経験等について講義する。</td> </tr> </table>	<b>【留意事項】</b>		※共通教育科目の「 <u>知の広場</u> 」, 「 <u>山口と世界</u> 」及び「 <u>データ科学と社会Ⅱ</u> 」の3科目については、下記を記入してください。		知の広場	<b>《記入例》</b> 多様な職種の専門家が、オムニバス形式により、それぞれの経験等について講義する。
<b>【留意事項】</b>							
※共通教育科目の「 <u>知の広場</u> 」, 「 <u>山口と世界</u> 」及び「 <u>データ科学と社会Ⅱ</u> 」の3科目については、下記を記入してください。							
知の広場	<b>《記入例》</b> 多様な職種の専門家が、オムニバス形式により、それぞれの経験等について講義する。						

		山口と世界	<b>《記入例》</b> 学外等におけるフィールドワーク等を通じて、課題解決に向けた実践的な学修をする。
		データ科学と社会Ⅱ	<b>《記入例》</b> 数理・情報系の研究者や情報系企業の技術者等を講師として招き、データサイエンスについて講義する。
<b>持続可能な開発目標 (SDGs)</b> <b>【任意項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業科目において、持続可能な開発目標 (SDGs) の 17 の指標に該当する項目を選択してください。(複数選択可)</li> </ul> <p>※持続可能な開発目標 (SDGs) の詳細については、入力画面上に URL を添付しておりますので、ご確認ください。</p>		
<b>関連科目</b> <b>【任意項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当科目がございましたら記入ください。</li> </ul>		
<b>連絡先</b> <b>【必須項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生からの問合せを受け付ける連絡先を記入してください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>《記入例》</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇〇〇[at]yamaguchi-u.ac.jp</li> <li>※[at]の部分を@に書き換えてメールしてください。</li> <li>・修学支援システムのメッセージで連絡してください。</li> </ul> </div> <p>※学生が必要な学習相談が行えるよう必ず記入してください。</p>		
<b>オフィスアワー</b> <b>【必須項目】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生からの問合せを受け付ける曜日や時間帯等を記入してください。</li> </ul> <p>※学生が必要な学習相談が行えるよう必ず記入してください。</p> <p>※学生が事前に連絡をする必要があるなどの条件がある場合は、その旨明記してください。</p>		



<資料1>

共通教育科目の学習の目的

系列・分野等	授業科目	単位数	学習の目的
<b>1.教養コア系列</b>			山口大学の学生としての基本的な学習スキル、生活スキルを身に付けるとともに、地域に貢献する意欲を育成する。
基礎セミナー	基礎セミナー	2	高等学校から大学への円滑な移行を図るため、学習および大学生活に必要なスキルを習得するとともに、自ら考え・判断・表現・行動・発言する基礎的な能力を身につける。
情報処理	データ科学と社会Ⅰ	1	「超スマート社会」の到来に備えて、それを支えるデータサイエンスの概要を理解するとともに、情報および情報手段を主体的に選択し、正しく安全に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。
	データ科学と社会Ⅱ	1	
知的財産教育	知的財産教育	1	知的財産についての全体概要と科学技術の役割を理解し、将来あるべき姿について多角的な視点から考察する力を養う。
運動健康科学	運動健康科学	1	自らの生活の質を高め、健康で文化的な生活を営むための基礎的知識と方法を習得する。
山口と世界	山口と世界	1	山口県の歴史、文化、経済、産業、自然、教育など身近な地域の特色を知り、地域社会の発展に寄与する能力や態度を身につけるとともに、それらの資質を将来所属する地域や国際的環境で活かす力を養う。
キャリア教育	知の広場	1	自己の在り方・生き方を考え、卒業後に社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的知識や態度を身につける。
	キャリア教育2	1	
<b>2.英語系列</b>			コミュニケーションツールとしての英語力（の基礎）を身につける。
英語	英語Ⅰa	2	汎世界的なコミュニケーションツールとしての英語力（の基礎）を身につけ、積極的に対話・討論・発表する力を養う。
	英語Ⅰb	2	
	英語Ⅱa	2	
	英語Ⅱb	2	
	英語会話Ⅰa	1	
	英語会話Ⅰb	1	
	英語会話Ⅱa	1	
	英語会話Ⅱb	1	
<b>3.一般教養系列</b>			人文・社会・自然の各領域の基本的な考え方を習得し、現代社会を支え、改善していくための基本的姿勢を身につける。
・人文教養領域			社会と文化およびそれらと人間の関わりに関する基礎的知識を習得するとともに、多文化・異文化を積極的に理解し、地域・社会に貢献する態度を身につける。
哲学	哲学	1	哲学・思想・宗教・芸術について基本的知識を身につけ、諸課題を発見・分析・考察する力を養う。
歴史学	歴史学	1	歴史上の諸事象がどのように説明され、どのような歴史的意義を有するかについて、時代や地域の固有性や普遍性を踏まえながら理解する力を養う。
社会学	社会学	1	社会学・社会心理学・文化人類学・民俗学について基本的知識を身につけ、現代社会の諸問題を発見・分析・考察する力を養う。
・社会教養領域			現代社会について基礎的な知識を習得し、良識ある市民として地域・社会に貢献する態度を身につける。
経済と法	経済と法1	1	経済や法律に関する基本的知識を身につけ、現代社会の諸問題を自ら発見・分析・考察する力を養う。
	経済と法2	1	
	経済と法3	1	
・自然教養領域			自然についての基礎的な知識を習得し、自然がかかわる現象や社会的問題について考察する力を養う。
自然科学	自然科学1	1	自然科学の諸領域の基礎を学ぶことを通じて、論理的思考力や合理的判断力を身につけ、自らの生活や学習に活かす力を養う。
	自然科学2	1	
・学際的教養領域			現代社会の諸問題と、その解決のための取り組みや課題などについて、情報ツールや数論的スキルなどをを用いて論理的に説明する力を養う。
人間の発達と育成	人間の発達と育成1	1	現代のさまざまな分野における発達環境や人づくりの面から、人間の心理・発達や人材育成について理解し考察する力を養う。
	人間の発達と育成2	1	
文化の継承と創造	文化の継承と創造1	1	伝統の継承や変容、異文化間の交流、情報化など現代文化の動きを理解することを通して、前世代から学ぶもの、次世代に伝えるものに関して考察する力を養う。
	文化の継承と創造2	1	
社会と医療	社会と医療	1	保健・医療・福祉の観点から健康問題を総合的に捉え、その将来あるべき姿について考察する力を養う。
環境と人間	環境と人間	1	自然の中で生きる人間と環境の問題・課題を理解し、環境・エネルギーの将来あるべき姿について考察する力を養う。
食と生命	食と生命	1	人間が生きていくために必要な食資源について関心を払い、生命に関して多角的な視点から考察する力を養う。
<b>4.専門基礎系列</b>			専門分野を学ぶための基礎的知識・技能を習得する。
理系基礎	*各科目		自らの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識・技能を習得する。
<b>5.教職基礎系列</b>			教育職員としての基礎的教養を習得する。
教職基礎	日本国憲法	2	日本国憲法についての理解を通して、人権及び平和と民主主義に関する、教育職員としての基礎的教養を習得する。
	スポーツ運動実習	1	
<b>6.教養展開系列</b>			発見し・はぐくみ・かたちにするための発展的教養を習得する。
国際展開	国際展開科目1	1	国際的に活躍するための教養と技能を習得する。
	国際展開科目2	2	
	海外英語研修	2	
地域展開	地域展開科目1	1	地域の課題を理解し、その将来あるべき姿について考察する力を養う。
	地域展開科目2	2	
知財展開	知財展開科目1	1	知的財産についての幅広い知識を習得し、知的財産がかかわる社会的問題について考察する力を養う。
	知財展開科目2	2	
ユニバーサルデザイン展開	ユニバーサルデザイン展開科目1	1	障害等をはじめとする多様性の理解、アクセシビリティに関する知識と理解、障害学生支援スキルとコーディネート能力を習得する。
	ユニバーサルデザイン展開科目2	2	
総合展開	総合科目1	1	分野横断的な学習や新しい分野等の学習により総合的・多角的な視野を身につけ、多様な社会に対応するための力を養う。
	総合科目2	2	

<資料2>

期末試験の有無による授業計画例

①1 Semester … 15週例 (期末試験なし)

【週単位】

	項目	内容
第1週	〇〇〇	講義の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法等
第2週	〇〇〇	〇〇〇
第3週	〇〇〇	〇〇〇
第4週	〇〇〇	〇〇〇
第5週	〇〇〇	〇〇〇
第6週	〇〇〇	〇〇〇
第7週	〇〇〇	〇〇〇
第8週	〇〇〇	〇〇〇
第9週	〇〇〇	〇〇〇
第10週	〇〇〇	〇〇〇
第11週	〇〇〇	〇〇〇
第12週	〇〇〇	〇〇〇
第13週	〇〇〇	〇〇〇
第14週	〇〇〇	〇〇〇
第15週	総括	〇〇〇

②1 Semester … 16週例 (期末試験ありa)

【週単位】

	項目	内容
第1週	〇〇〇	講義の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法等
第2週	〇〇〇	〇〇〇
第3週	〇〇〇	〇〇〇
第4週	〇〇〇	〇〇〇
第5週	〇〇〇	〇〇〇
第6週	〇〇〇	〇〇〇
第7週	〇〇〇	〇〇〇
第8週	〇〇〇	〇〇〇
第9週	〇〇〇	〇〇〇
第10週	〇〇〇	〇〇〇
第11週	〇〇〇	〇〇〇
第12週	〇〇〇	〇〇〇
第13週	〇〇〇	〇〇〇
第14週	〇〇〇	〇〇〇
第15週	総括	〇〇〇
第16週	期末試験	〇〇〇

③1 Semester … 16週例 (期末試験ありb)

【週単位】

	項目	内容
第1週	〇〇〇	講義の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法等
第2週	〇〇〇	〇〇〇
第3週	〇〇〇	〇〇〇
第4週	〇〇〇	〇〇〇
第5週	〇〇〇	〇〇〇
第6週	〇〇〇	〇〇〇
第7週	〇〇〇	〇〇〇
第8週	〇〇〇	〇〇〇
第9週	〇〇〇	〇〇〇
第10週	〇〇〇	〇〇〇
第11週	〇〇〇	〇〇〇
第12週	〇〇〇	〇〇〇
第13週	〇〇〇	〇〇〇
第14週	〇〇〇	〇〇〇
第15週	期末試験	〇〇〇
第16週	総括	〇〇〇

④1 Semester … 8週例 (期末試験なし)

【週単位】

	項目	内容
第1週	〇〇〇	講義の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法等
第2週	〇〇〇	〇〇〇
第3週	〇〇〇	〇〇〇
第4週	〇〇〇	〇〇〇
第5週	〇〇〇	〇〇〇
第6週	〇〇〇	〇〇〇
第7週	〇〇〇	〇〇〇
第8週	総括	〇〇〇

⑤1 Semester … 8週例 (期末試験ありa)

【週単位】

	項目	内容
第1週	〇〇〇	講義の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法等
第2週	〇〇〇	〇〇〇
第3週	〇〇〇	〇〇〇
第4週	〇〇〇	〇〇〇
第5週	〇〇〇	〇〇〇
第6週	〇〇〇	〇〇〇
第7週	〇〇〇	〇〇〇
第8週	総括と試験	〇〇〇

⑥1 Semester … 8週例 (期末試験ありb)

【週単位】

	項目	内容
第1週	〇〇〇	講義の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法等
第2週	〇〇〇	〇〇〇
第3週	〇〇〇	〇〇〇
第4週	〇〇〇	〇〇〇
第5週	〇〇〇	〇〇〇
第6週	〇〇〇	〇〇〇
第7週	総括と試験	〇〇〇
第8週	〇〇〇	〇〇〇

<資料3>

[AL(アクティブ・ラーニング)の用語集]

A	グループワーク	・集団に参加するものが、相互に影響し合う教育的過程であり、集団家庭や集団における相互作用など、学修の集団的な側面を強調する学修形態
B	ディスカッション・ディベート	・集団成員の参加によって、課題について話し合いによる学修を指し、ディベートとは、二組の個人またはグループが一定のルールに従って一つの論題について論争すること
C	フィールドワーク (実験・実習、演習を含む)	・ある目的を持ち、一定のフィールドにおいて観察・調査をしたり、資料を直接収集したりする調査活動(実験室等で行う実験・実習、演習を含む)
D	プレゼンテーション	・学修者が他の人々を対象にして行われる言語的・身体的表現活動(模造紙や写真, OHP やビデオ, コンピューターなどのメディアを使った口頭発表のほかにも様々な形態がある)
E	振り返り	・授業内において、その授業の学修内容や学修方法、自分自身の学習状況などを想起し、ノートやワークシート(コメントシートなど)に記入などを行う活動
F	宿題	・教員が学修者に対して、一定の学修、作業課題を正規の授業時間外(授業外学修時間)で行わせ、その結果を定められた期日までに提出するよう義務付けたもの

※「ALポイント認定制度シラバス入力マニュアル(教員用)【改訂版】」より抜粋。

<資料4>

教職課程を構成する授業のシラバスの書き方について

問い合わせ先:教職センター

対象学部:人文学部, 教育学部, 経済学部, 理学部, 農学部, 工学部

対象研究科:人文科学研究科, 教育学研究科, 経済学研究科, 創成科学研究科

【一般的な注意事項について】(各学部等の専門科目を含む教職課程の全科目対象)

1. 内容の重複に関する注意

「授業計画」の【週単位】の各回の内容を、複数回(3回以上)に渡って数字のみで区別することは認められていない(例:第1回から第3回が、「模擬授業1」,「模擬授業2」,「模擬授業3」)。本学のシラバスでは、各回の「項目」においては複数回同じでもよいが、その場合は「内容」で違いがわかるようにすること。

2. 授業回数に関する注意 ～「試験」だけの回の扱いについて

所定の回数を確保すること(例:2単位 15週, 1単位は8週)。その際、「試験」のみの回は、その授業回数に含むことはできない。「試験とまとめ」等は、授業回数に含めてよい。

※「授業計画」の【週単位】の期末試験の設定に関して(a)(b)参照

3. 複数人で担当する授業に関する注意(\*1)

担当形態の記載, および各授業回において担当教員が異なる場合は、各回の担当教員名を明記すること。

※担当形態は「授業計画」の【全体】に記載すること。

※担当形態が「複数」「オムニバス」「クラス分け・○○」の場合, 担当教員名を【週単位】の各回の「項目」又は「内容」のいずれかに記載のこと。なお, シラバス入力時に担当教員が決定していない場合, 適宜シラバスを修正し, 学生に周知を行ってください。

\*1 文部科学省「教職課程認定申請の手引き(令和6年度開設用)」より

[https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt\\_kyoiku\\_jinzai02-000003171\\_1-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt_kyoiku_jinzai02-000003171_1-1.pdf)

⑦「担当形態」欄は以下の別を記載すること。

担当形態	・ 1人の教員が全回担当する場合	→ 「単独」
	・ 1回の授業を2人以上の教員が一緒に担当する場合	→ 「複数」
	・ 各回の担当教員が異なる場合	→ 「オムニバス」
	・ 上記のうち、クラス分けで担当する授業科目である場合	→ 「クラス分け・○○」

※クラス分けの場合、各クラスの担当形態を含めて記載すること。(例:クラス分けされた科目において、各クラスをオムニバスで教員が担当する場合 → クラス分け・オムニバスなど。)

※各授業回を複数の教員が交代で担当する場合(複数・オムニバス)など、複数の担当形態が混在している場合においては、授業の実態に即した記載とすること。

### 【特定の科目等における注意】

#### 1. 中学校・高等学校の課程の一部の専門科目 ～「一般的包括的な内容」(\*2)

各学部で開設されて教科専門の科目(「教科に関する専門的事項」)のうち、「一般的包括的な内容」を含む授業科目については、「授業計画」欄からそのことが読み取れるように記載すること。

補足:「一般的包括的な内容」を含む科目は学務係等で確認すること。内容が確認できず、卒業生を含めた再履修の実施を文部科学省から命じられた大学もある。

\*2 文部科学省「教職課程認定申請の手引き(令和6年度開設用)」より

[https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt\\_kyoikujinzai02-000003171\\_1-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt_kyoikujinzai02-000003171_1-1.pdf)

※ 「一般的包括的な内容」とは、その学問領域をおおまかに網羅するものであり、特定の領域に偏っていないものである(教職課程認定審査の確認事項2(1)参照)。

(例) 中一種免(社会)の場合

その区分の一般的包括的な内容を、授業科目「日本史概論」及び「外国史概論」の二つの授業科目で満たす場合には、これら両方の授業科目名称とその単位数のセルを灰色で塗ること。

#### 2. 「教職に関する科目」「教科の指導法」等 ～「テキスト」等への記載(\*3)

(対象科目に教科の専門科目は含まれない。)

「保育内容の指導法」「各教科の指導法」「教育課程の意義及び編成の方法」「道徳の理論及び指導法」「総合的な学習の時間の指導法」「特別活動の指導法」「道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容」「教育の方法及び技術」の事項を扱う科目では、「教科書にかかわる情報」又は「参考書にかかわる情報」欄のいずれか一方に必ず記載があること(両方とも「なし」は不可)。また、関連する学習指導要領等は必ず記載すること。

\*3 文部科学省「教職課程認定申請の手引き(令和6年度開設用)」参照

[https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt\\_kyoikujinzai02-000003171\\_1-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt_kyoikujinzai02-000003171_1-1.pdf)

#### 3. 「含めることが必要な事項」が設定されている科目に関する注意

「各教科の指導法(情報通信機器及び教材の活用を含む)」など、含めることが指定されている科目については、必ず「授業計画」の【週単位】に記載し、どの回で扱っているかがわかるようにすること。

### 【「教職コアカリキュラム」関連科目についての注意事項>(\*4, \*5)

対象科目:「教育の基礎的理解に関する科目等」「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)」の必修科目及び選択必修科目「外国語(英語)」の「教科に関する専門的事項」の一般的包括的な内容を含む科目(\*2)および特別支援学校教諭免許状の取得に必要な専門科目。

コアカリキュラム対応表の各要素が、該当する科目の授業のどの回で満たされるのか対応できていること。

※2科目以上の科目によりコアカリキュラムを構成する場合は、必修・選択の組み合わせに注意し、どの科目選択のパターンで履修しても、コアカリキュラム対応表をすべて満たす履修が実施されることを確

認すること。

＊4「教職課程コアカリキュラム」,「教職課程認定申請の手引き(令和6年度開設用)」

[https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt\\_kyoikujinzai02-000003171\\_1-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt_kyoikujinzai02-000003171_1-1.pdf)

＊5「教職課程コアカリキュラム対応表」,「外国語(英語)コアカリキュラム対応表」,「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム対応表」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kyoin/080718\\_1.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoin/080718_1.htm)

## <参考資料>

### 学則 37 条の 2

(成績評価基準等の明示等)

第 37 条の 2 授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画は、学生に対してあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

### 学則 38 条

(単位の計算方法)

第 38 条 各授業科目の単位は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果等を特に考慮する必要がある場合には、次の区分により当該各号に定める時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

(1) 講義及び演習 15 時間から 30 時間までの範囲で第 31 条第 2 項の別に定める時間の授業

(2) 実験、実習及び実技 30 時間から 45 時間までの範囲で第 31 条第 2 項の別に定める時間の授業。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、学部において定める時間の授業。

(3) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち 2 以上の方法の併用により行う授業科目 その組み合わせに応じ、前項各号又は前 2 号に規定する基準を考慮して学部において定める時間の授業

3 前 2 項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、学部規則において単位数を定めることができる。

## 中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成 20 年 12 月)

### 単位制度の実質化の具体的な改善方策として大学に期待される取組

学部・学科等の目指す学習成果を踏まえて、各科目の授業計画を適切に定め、学生等に対して明確に示すとともに、必要な授業時間を確保する。

シラバスに関しては、国際的に通用するものとなるよう、以下の点に留意する。

- ・各科目の到達目標や学生の学修内容を明確に記述すること
- ・準備学習の内容を具体的に指示すること
- ・成績評価の方法・基準を明示すること
- ・シラバスの実態が、授業内容の概要を総覧する資料(コース・カタログ)と同等のものにとどまらないようにすること

## 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(平成 24 年 8 月)用語集

### [授業計画(シラバス)]

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。アメリカでは、教員と学生の契約書と理解されている例もある。

授業内容の概要を総覧する資料(いわゆるコース・カタログ)とは異なり、科目の到達目標や学生の学修内容、準備学修の内容、成績評価の方法・基準の明示が求められる。

## 中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」(令和 2 年 1 月 22 日)

シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在である。米国では、教員と学生の契約書と理解されている例もある。単なる講義 概要(コースカタログ)にとどまることなく、学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」における当該授業科目の位置付けや他の授業科目との関連性の説明、学生が事前準備のための学修や事後の発展的な学修を主体的に行う上での指針とすることができる事前・事後学修の指示を含み、授業の行程表として機能するとともに、「何を学び、身に付けることができるのか」(到達目標)を明確に定めることで適切な成績評価を実施するための基点としても機能するよう作成される必要がある。具体的には、

- ・授業科目の目的と到達目標
- ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の到達目標の関係
- ・授業科目の内容と方法



- 授業科目の計画
- 成績評価基準
- 事前学修と事後学修の内容

等を盛り込む必要がある。なお、事前学修及び事後学修については、これらに必要な学修時間の目安を示すことも考えられる。また、到達目標の達成状況を定量的又は定性的な根拠に基づき評価することができるよう、到達目標を定めるに当たっては、例えば「学生は、～することができる」といった形式で記述することも考えられる。